



## 富山県ゆかりの文学を体感できる 高志の国文学館がオープン

富山県は万葉歌人・大伴家持が 223 首もの歌を詠んだ越中万葉ゆかりの地。また、堀田善衛、源氏鶏太、角川源義といった作家や、宮本輝の『螢川』、柏原兵三の『長い道』、新田次郎の『劔岳点の記』など、富山を舞台にした文学作品も数多い。映画では滝田洋二郎や本木克英、細田守、そして、漫画では藤子不二雄<sup>Ⓐ</sup>、藤子・F・不二雄らを輩出している。

今年7月に開館した高志の国文学館は、これら富山県ゆかりの作家や作品の魅力を、子どもから大人まで体感しながら気軽に楽しめる場として人気を集めている。

建物は旧知事公館を改修し、新たに展示棟を増築。従来の風趣に富んだ庭をできるだけそのまま活かす形で再整備し、富山県の田園風景を代表する屋敷林を象徴的に表現した万葉の庭や松川辺りからのアプローチなど、周辺のランドスケープと一体化して整備・再生された。

設計にあたったのは、シーラカンズアンドアソシエイツ。展示棟は「蔵」と「土間」で構成され、「蔵」の壁には内装、外装ともに、越中万葉で詠まれた植物の葉を铸込んだ北陸アルミニウム製作のアルミの大判铸物パネルを使用している。ライブラリーコーナーでは約3m×7mの3枚のペアガラスから庭園を眺めながら、富山県ゆかりの作品を読むのも心地いい。

構造は、「蔵」の壁式コンクリートが「土間」屋根の鉄骨トラスを支え、13m という大きな庇とともに柱のない空間を可能にした。天井のルーバーや床素材も内と外で連続性をもたせ、軒の深い縁側のような空間に。併設のレストラン「ラ・ベツトラ・ダ・オチアイ・トヤマ」とともに、県民の新たな憩いの場として多くの人が訪れている。

<http://www.koshibun.jp/>

TEL.076-431-5492 FAX.076-431-5490

撮影：上田 宏